あとがき

本号を読むと東京医科大学雑誌にも変化が起き始めていると感じた。本号の4編の原著論文は全て英文である。いずれも秀逸でoriginalityのあるものである。業績を英文で著し、その成果を国外の研究者にも読んでもらえれば素晴らしいことであり、編集委員会の次の仕事は本誌論文が世界中から検索されるようにする仕組みを構築すること思った。

本誌の内容を紹介しよう。特別講演は石龍徳教授と近津大地教授のこれまでのライフワークとされている仕事の紹介である。石教授の講演、「生体海馬ニューロンの新生」については、神経は再生あるいは新生することはないと教わり、そう信じていた筆者には驚きであった。また、近津教授の講演「交合機能の回復：インプラント治療と骨造成」については、ヒトにとって咀嚼は最も重要な機能の一つであると再認識し、その機能を回復させるための口腔外科手術に感銘を受けた。臨床懇話会は、興味深くまれな2症例であり、貴重な症例を記録に残したことに感謝したい。総説は冨山博史教授の「血管機能検査」で、第二内科の研究テーマの一つをまとめてもらった。そのほか、東京医科大学医科学フォーラム、東京医科大学免疫アレルギー研究会や第167回東京医科大学医学会総会の記録集などが掲載されているが、豊富な内容となったことを編集委員の1人としてた感謝したい。

話しを変えよう。今日の臨床医学ではEBM全盛であるが、「統計学的有意差が実証されればエビデンスであり、何物にも優る。」「どんな理論的背景があっても大規模臨床試験で有用性が統計学的に実証されなければ、その検査や治療は意味がない。」と勘違いされているようにも感じる。EBMとは「全ての有用な証拠を配慮した医学的判断を遂行するプロセス」であり、エビデンスの医学ではない。基礎医学の理論が臨床医学で実証され、臨床医学での成果が基礎医学の理論で説明されて始めてエビデンスとなる。それを応用するのがEBMである。100周年を前に東京医科大学では、研究体制の充実が図られているが、さらにこういったトランスレーショナルな研究あるいは臨床研究を推進するためのインフラ整備、たとえば、臨床研究のためのデータセンター、統計解析センター、あるいはEBMセンターなどの新設あるいは充実を望む。

（山科　章　記）

当該雑誌に掲載された論文の著作権は本医学会に帰属する。
また本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き禁じられている。

GREEN PRINTING JFPI
P-B10005

VEGETABLE OIL INK

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。
インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

平成23年10月25日　印刷
平成23年10月30日　発行
東京医科大学雑誌　第69巻　第4号
発行者　臼　井　正　彦
発行所　東京医科大学医学会
（東京医科大学内）
〒160-8402
東京都新宿区新宿6-1-1
TEL　03（3351）6141（代）
FAX　03（3226）7030
e-mail address
igakukai@tokyo-med.ac.jp
印刷所　笹氣出版印刷株式会社
〒984-0011
仙台市若林区六丁の目西町8-45
TEL　022（288）5555